

## 公益社団法人日本看護科学学会2025年11月社員総会 議事録

日 時：2025年11月30日（日）13：00～14：30

場 所：オンライン開催

総社員数：340名

出席社員数：282名（当日出席88名、委任状・議決権行使194名）

出席理事・監事：酒井郁子（理事長）、吉沢豊予子（副理事長）

（うち8人社員） 大久保暢子、亀井智子、萱間真美、黒河内仙奈、グレッグ美鈴、島田陽子、

西村ユミ、任和子、山川みやえ、横田慎一郎

井部俊子（監事）、数間恵子（監事）（以上 50 音順）

議 長：酒井郁子理事長

配 布 資 料：2025 年 11 月社員総会議案書（議事次第）

議事録作成：星美鈴（神奈川県立保健福祉大学）、有田孝行（公益社団法人日本看護科学学会事務所長）

### I.開 会

・司会：吉沢豊予子副理事長

・出席者数：77名（うち理事と監事は13名）、有効委任状：179名

日本看護科学学会定款第23条および24条を満たし、11月社員総会の開催が報告された。

### II.理事長挨拶

酒井郁子理事長より挨拶があった。

本学会は、看護学の発展を通じて社会に貢献することを使命として活動を続けてきた。この歩みは、会員の皆様一人ひとりの研究と教育と実践の積み重ねによって支えられており、改めて深く感謝申し上げる。現在、看護学を取り巻く環境は大きく変化しており、学会には学術的根拠に基づく発信に加えて、次世代を担う研究者や実践者を育てる役割がこれまで以上に求められている。若手が安心して挑戦できる環境づくりも重要な課題であると認識している。

次年度予算の取り扱いについて、従来ではこの時期の社員総会で次年度予算の承認をいただいていたが、これは法令上必須ではない。現在、予算編成に関する最終的な責任を理事会が負う体制のもとに理事会の決議を踏まえ、外部の専門家の助言も参考にしながら検討を進めているところである。その内容を反映した案を2月の理事会において審議、決定し、内閣府に提出する予定である。したがって、本日の社員総会で次年度予算の承認決議は行わず、6月の定時社員総会において説明することにしたのでご理解いただきたい。

期せずして理事長を拝命することになり、今まで準備不足のまま来ている雰囲気は否めないが、今期理事長として皆様の声に耳を傾けながら着実に取り組んで参りたい。

本日の社員総会が本学会の現在と将来を共有する有意義な機会になることを願い、挨拶とする。

### III.第45回日本看護科学学会学術集会会長の挨拶

有森直子第45回学術集会会長（新潟大学）より、以下の挨拶があった。

いよいよ来週には皆様をお迎えすることに企画委員一同、楽しみな気持ちと緊張感を持って過ごし

ている。開催にあたり、皆様からいただいたご支援に心より感謝申し上げる。現時点で3,240名の登録をいただいている。プログラムでは、1,100を超える演題と、88の交流集会が開催される。また、「看護科学と尊厳」をテーマに基調講演、特別講演を行うなど、議論が深まるプログラムを工夫している。ぜひ、学会の醍醐味である研究者としての活発な意見交換をお願いしたい。

日本海側の気になる天気は、今のところ長期予報では木曜日くらいに降雪があるが、週末は雪のマークは出ていない。しかしながら、天気がコロコロ変わるのが日本海側の冬の天気の特徴であるので、携帯の傘と防寒の備えをしてのご来訪をお願いしたい。

来週、皆様とお目にかかれることをJANS45委員一同お待ち申し上げます。

#### IV.議長指名および議事録署名人の承認

議長は定款第22条3項にしたがい、酒井郁子理事長が務める。

議事に先立ち、9月27日に逝去された名誉会員の松野かほる先生へ黙とうが捧げられた。

議事録署名人は、奥裕美氏（聖路加国際大学）、小池智子氏（慶應義塾大学）が、議長から推薦され承認された。

#### V.理事長の所信表明

理事長を拝命して色々と考えたところ、まず看護科学というものが私たちの多様な現場で生まれる問いから始まっていることを再確認した。問いを立てる自由、議論する自由、そして批判と再構築の自由というものが、看護科学を発展させてきており、これからもそれは変わらない。しかし、自由は自然には続かないわけで、自由というものは学会コミュニティが自ら作り、自ら守る仕組みという自律的なガバナンスがあって初めて支えられるものだとして理解している。自由というものは、責任あるルールにより持続し、持続可能性は未来の自由の条件であると思っている。これらのガバナンスは、決して規制や管理等ではなく、自由な探求を次世代に手渡すための未来志向、変化対応の基盤となると考えている。

自由な探求を支えること、つまり学会がどうあるべきか、ということについて少し考えた。これまで日本の看護系の学会はマルチディシプリナリーな活動ということで、その専門性を生かした並列的かつ階層的な組織で進めてきたと思う。これはタスクが明確で管理しやすく対立が少なく安定的ではあるし、各委員会や各領域の専門性も深まっていくと思う。しかしデメリットとして、「たこつぼ化」が生じたり統合的な意思決定が難しくなったりすること、相乗効果が生まれにくく変化に対応する力が低くなっていくと思う。若手もなかなか舞台に立ちにくいということもあるかと思う。

これに対してインターディシプリナリーな活動は、専門領域が共同して知識や価値を生み出す組織である。メリットとしては、組織レジリエンスの向上や相互補完により委員会や領域の孤立を防止すること、若手が成長しやすく意思決定の質が高まること、学会全体の方向性が統合されることがある。デメリットとしては、調整コストが増加し、価値の違いによる対立が生じやすく意思決定が複雑になっていくことがある。タスクが重複していくことで、お互いの仕事をお互いから学び、お互いに口を出すことが増えていくような組織、それはお互いに文句をいうのではなく、お互いが相互補完をしていくという意味でインターディシプリナリーな活動ということである。今期のJANSの活動としては、インターディシプリナリーな活動に重点を置いて、運営をしていきたいと考えている。

JANSの特質として、看護学のどこか単一の専門領域を代表する学会ではなく、看護学全体を扱う学会であることは皆様ご存じのとおりかと思う。看護学全体の学術体系を扱い看護学の中の領域をまたぎ、交差し、お互いを補完する、インターディシプリナリーな特質がJANSには備わっており、このJANSの場が研究、教育、実践を統合する場としても機能するということが重要だと思う。だからこそ、看護学は何のために発展するのかという、皆様にとっての共通する目的（Common Purpose）が必要になると思う。

JANSが共有すべきCommon Purposeを、定款第2条のJANSの存在目的を基に考えた。定款第2条では「本会は、看護学の発展を図り、広く知識の交流に努め、もって人々の健康と福祉に貢献すること」を目的にしている。これを自分なりにかみ砕いて考えると、個人・コミュニティ・地球のあらゆる場において営まれる生老病死が、より安寧なものとなり、人が尊厳をもって生きることができる環境が、将来にわたって保たれるよう、そのプロセスと支援のあり方、成果を科学的に明らかにすることかと思う。併せて、気候変動が健康と医療に及ぼす影響を重要な研究課題と位置づけ、持続可能な社会とユニバーサルヘルスカバレッジの実現に貢献する。これが今期のCommon Purposeとして明文化したものである。

これから紐解いて、今期理事会のミッションを2点挙げている。JANSを多様な立場や知が出会い、互いに問い直し、支え合いながら深まっていくような、ひらかれた議論の場とすること。このことによって、本学会が現場と研究、社会と学術を行き来する「信頼の回路」として機能すること。これが今期理事会のミッションである。

このミッションに基づいて目標を2点掲げる。1点目は、開かれた議論の場としての継続可能性を確保すること。この具体的な行動目標として、まずは、赤字の決算が続いているため、財政の健全化と学会の価値向上に向けたルール整備を行う。これは緊縮財政を徹底するということではなく、無駄を省いた上でなるべく効果的にお金を使って学会の価値を向上させていくということであり、そのためにルールを整備していくことを考えている。2番目には多様な立場の会員が交流する仕組みの強化と実装、3番目には効果的効率的な委員会活動の促進、そして4番目には学術誌の質保証と継続可能性の確保である。次に目標の2点目として、社会と学術、実践と研究と教育の信頼の回路を機能させるということについて、まずは透明性と説明責任に基づく社会発信の強化をしたいと思っている。それから、実践・研究・教育が相互に高め合う循環の促進をしていきたい。そして、学会間の連携強化による学術基盤の拡張に取り組んでいく。以上が今期理事会の活動目標である。

## VI.総務報告・理事会報告・委員会活動報告

### 1) 総務報告（黒河内仙奈理事）

議案書4頁に沿って報告があった。

- ・2025年10月10日現在の会員数：正会員10,562名、学生会員42名、名誉会員18名、賛助会員8件の合計10,630名となり、前年度の同時期から122名増加している。
- ・地区別正会員数は議案書4頁を参照されたい。看護に携わる方、看護に関心のある幅広い方に入会いただきたく、入会について引き続き周囲の方々に声をかけていただきたい。

### 2) 理事会報告（黒河内仙奈理事）

議案書5-13頁に沿って報告があった。

- ・今年度は理事会5回、臨時理事会2回、書面理事会1回を開催した。詳細は議案書5-9頁を参照されたい。
- ・6月より理事会が新体制となった。2025-2027年度委員会名簿は議案書10-13頁を参照されたい。

### 3) 委員会活動報告

議案書14-27頁に基づき、各委員会担当理事より委員会活動報告があった。

#### (1)和文誌編集委員会（亀井智子理事）

議案書14頁に沿って報告があった。

##### ①日本看護科学会誌（電子ジャーナル）の発刊

- ・日本看護科学会誌45巻をオンラインで発刊した。
- ・2025年1月以降の投稿論文数は、293編であった（2025年10月現在）。
- ・論文公開時には会員に向け一斉メールを配信することで、掲載の周知を行った。
- ・表彰論文選考に参画した。

##### ②更なる円滑な投稿に向けての取り組み

- ・査読委員の任期満了に伴い交代を行った。2025年10月就任の査読委員は354名である。

#### (2) 英文誌編集委員会（グレッグ美鈴理事）

議案書14-15頁に沿って報告があった。

##### ①Japan Journal of Nursing Science の発行

- ・Japan Journal of Nursing Science Vol.22 をオンラインで発刊した。
- ・2025年1月以降の投稿論文数は、565編であった（2025年9月末現在）。
- ・表彰論文選考に参画した。
- ・2024年のImpact Factor は、1.6であった（2025年6月発表）。

##### ②迅速査読

2025年9月末現在で37編の投稿があった。

##### ③編集長の国際公募の準備

現編集長Holzemer氏の契約満了（2026年12月31日）に伴い、次期編集長の国際公募を2026年1月から開始するための準備を行った。公募要領はウェブサイトに掲載予定である。

##### ④編集リスクマネジメント体制の構築

和文誌編集委員会と、出版活動における公平性と透明性を確保し、学術的信頼と研究倫理を確保することを目的として、編集上のリスクマネジメント体制を検討した。

##### ⑤出版社およびゴールドOA化の検討

現在のWileyとの契約が2026年12月に終了することから、出版社の選定とゴールドOAへの移行について検討を行った。

##### ⑥JJNSセミナーの開催

- ・2024年JJNS セミナー：Improving Your Success at Publishing in English 2024：The Challenges of International Collaborative Research をオンデマンドで開催した（2024年12月6日～2025年1月31日）。受講者数は、382名であった。

- ・2025年JJNS セミナー：Artificial Intelligence (AI) in scholarly publishingをオンデマンドで開催する（2025年12月中旬～2026年1月末予定）。

⑦学術集会における委員会企画：交流集会、投稿コンサルテーション

第45回学術集会において、交流集会「Responding to Reviewers: Turning Revisions into Scholarly Dialogue」と投稿コンサルテーションを実施する予定である。

(3) 表彰論文選考委員会（荒尾晴恵理事が欠席のため、亀井智子理事から報告）

議案書15-16頁に沿って報告があった。

①表彰論文の選考

- ・表彰論文選考手順により、和文誌、英文誌の各編集委員会より審査対象論文19編（和文9編・英文10編）の選定を受け、表彰論文選考委員会で優秀賞・奨励賞候補論文7編（和文3編 英文4編）を審査リストとして作成した。
- ・全代議員、役員344名に採点を依頼し、245件の評価点の集計を行った：回収率約71%（245/344）。表彰論文選考委員会で最終選考を行い、優秀賞1編：濱谷雅子氏、奨励賞2編：友岡史沙氏、牟田みや子氏が選ばれた。

②学術集会演題表彰の実施

第45回学術集会（12月6日）において演題表彰を実施する。

賞は「優秀演題口頭発表賞」「若手優秀演題口頭発表賞」「優秀演題ポスター発表賞」で、対面での評価を実施して表彰論文を決める予定である。表彰については、学術集会2日目に時間と場所を設定し、受賞者に賞状と記念品を渡し写真撮影を行う。写真は後日学会HPで公開する。

③他組織からの表彰候補者の推薦

日本学術振興会賞（第22回）からの推薦依頼に対して、適格者を選考し、1名を推薦した。

(4) 研究・学術推進委員会（横田慎一郎理事）

議案書16-17頁に沿って報告があった。

① 科学研究費助成事業における大型研究獲得支援プロジェクト

2025年1月13日の公募には3名の申請があった。1名は支援対象外であり、2名を採択して支援を行った。2023年度の採択者1名を含め、合計3名が基盤研究Aへの申請を行った。

② COVID-19看護研究等対策委員会の引継ぎ事項

COVID-19看護研究等対策委員会の業務を本委員会で引き継いだ。また、「取得済み調査データの分析・論文執筆を行う学会主導型研究プロジェクト」について論文投稿が未完了であった2チームの投稿が完了した。

③ JANS セミナーの企画・開催

第26回JANSセミナー「ゼロから始めるデータベース研究：マスタをマスターする」をリアルタイム配信（2025年9月21日13時半～16時）とオンデマンド配信（2025年9月30日～10月31日）にて開催した。申込数は、ライブ配信：823名、オンデマンド配信：442名であった。

④ 第45学術集会での交流集会の企画

第45回学術集会において、交流集会「科研費獲得のノウハウを共有しよう：より大型の研究種目へのステップアップ」を開催する。

#### ⑤ オンラインジャーナルクラブ

2025年3月25日に開催した。定員170名（会員100名・学生20名）を設定し、当日は会員・学生を含めて154名の参加があった。

#### (5) 看護ケア開発・標準化委員会（山川みやえ理事）

議案書17-18頁に沿って報告があった。

##### ①エビデンスに基づく看護ケア推進体制の構築

エビデンスに基づく看護ケア（EBP）を日本の看護系学会横断で進めるため、日本看護系学会協議会（JANA）との連携を強化した。2024年10月から2025年6月にかけて、JANAの加盟学会を対象にEBPの推進やガイドライン作成の現状を把握する調査を実施した。ウェブアンケートとインタビューを通じて、ガイドライン作成経験や普及体制、必要なリソース等が可視化された。調査報告はJANSのHPにも掲載している。現在、JANAとさらに細かな調査をしようということで共同調査へと発展している。

##### ②第45回学術集会における成果共有と課題分析

第45回学術集会の交流集会にて、調査結果とモデル事業の進捗について「モデル事業『看護ケアガイドライン作成』体験とJANA-JANS合同調査結果からの前進」と題して報告予定である。看護ケア標準化の重要な論点を共有するのでぜひご参加いただきたい。

##### ③ガイドライン作成の推進と出版準備

2017年度から継続している「看護ケアガイドライン作成モデル事業」では、Mindsの作成マニュアルに準拠した「高齢者尿失禁ケアの行動療法 排尿促進法（PV）に関する看護ケアガイドライン」の開発を進めている。現在は、電子出版の準備、推奨度決定、外部調査評価など、刊行に向けた最終工程に入っている。刊行は2026年3月を予定している。

##### ④関連研究と科学的基盤の強化

ガイドラインの開発を支える基盤研究として、「尿失禁を有する高齢者の生活習慣介入」に関するスコーピングレビューも行い、行動療法を支えるエビデンスの整理も進めている。

##### ⑤次年度（2026年度）への展望

各学会のガイドライン開発支援の体系化をJANSとJANAで協働して形を作れたらと考えている。患者と市民団体との協働による社会的普及、Choosing Wiselyも進めており、看護としての貢献を重点的に取り組む予定である。また、国際発信も積極的に強化する。

#### (6) 若手研究者活動推進委員会（横田慎一郎理事）

議案書18-19頁に沿って報告があった。

##### ① 委員会としての活動

JANS若手の会のメーリングリストの運営（エリアコーディネーターと連携したメーリングリストの修正と維持管理）を行った。また、活動についての情報発信を実施した。

##### ②JANSセミナーの開催

第25回JANSセミナー「看護学研究における患者・市民との協働－患者・市民とともに未来を創り出そう－」（オンデマンド配信）を開催した（配信期間：2025年3月26日～5月26日）。

##### ③エリア検討会開催支援

JANS若手の会のエリアコーディネーターが各地域で開催するエリア検討会の支援（金銭的・事務的な手続き）を行った。6エリアで開催しており、開催報告についてはJANS若手の会ホームページ上に随時掲載している。

#### ④エリアコーディネーター活動の活性化

JANSエリアコーディネーターの活動には地域差がある。活性化を目的としてSlackを設けているが、よりよいあり方について委員会で検討しているところである。

#### ⑤第45回学術集会での交流集会の企画

交流集会「JANS若手研究者活動推進委員会主催 どうする？どうなる？少子化時代に活躍する若手研究者のキャリアデザイン」を開催予定である。若手の助教等、研究員をしている方々と広く情報交換をする場を設ける予定で企画を進めている。

### (7)国際活動推進委員会（春名めぐみ理事欠席のため、酒井郁子理事長から報告）

議案書19頁に沿って報告があった。

#### ① 委員会企画 交流集会

第45回学術集会において、交流集会「国際メンターシップ・プログラムって実際どうなの？メンティの成長とメンターの気づき」を開催予定である。

#### ② 異文化看護データベース

異文化看護データベースの更新について以前より検討している。全国の看護職他に利用していただいていることや、毎月平均300回のアクセスがあることから、当初の目的に合わせて随時積極的に更新していく方針とした。2024年は応募者17名のうち7名へ依頼をした。すべてのデータが提出され、委員会の確認を経てウェブサイトにも更新された。

#### ③ 世界看護科学学会（World Academy of Nursing Science：WANS）への協力支援

WANS 学会から演題査読者の依頼があり、操華子先生とグレッグ美鈴先生を推薦した。

#### ④JANS 若手研究者メンター制度企画

Early-career看護研究者の国際活動、国際交流の推進、看護学の発展とキャリア形成に寄与するという目的で、Early-career看護研究者を対象とした国際メンターシップ・プログラムを設立した。これは、Early-careerの看護研究者（メンティー）が看護研究のエキスパート（メンター）により英語で研究のメンタリングを受ける制度である。これまで4名の海外研究者にメンターを依頼することが実績としてある。

### (8) 看護学学術用語検討委員会（大久保暢子理事）

議案書19-20頁に沿って報告があった。

#### ① JANSpedia への新用語追加の審査および英訳

- ・新用語の募集に関する広報を紙面ポスター・会員メーリングリストにて行った。
- ・新用語が1つ申請され、現在審査中となっているが、採択され近日中にHPに掲載予定である。
- ・英語サイトの作成を進めるため、100の用語と16の新用語の解説の英語翻訳を終え、委員等の看護専門家で英語の文章チェックも終わり、HPに掲載している。したがって、日本語の用語と英語の用語の2つになった。

#### ② 実装評価について（JANSpediaのアクセス分析など）

- ・ JANSpediaのアクセス分析、看護学学術用語の構築・実装の視点から委員会活動の評価を継続検討している。
  - ・ 看護系研究論文や看護系大学の授業資料、入試問題等でJANSpediaの用語が引用されている。
  - ・ 2022年度～2025年1月までに新用語については計16用語の掲載を行っている。
- ③ 看護学学術用語追加の審査システムとJANSpediaサイトの操作の両マニュアルの作成
- ・ 次期委員会への適切な引継ぎのために、看護学学術用語追加の審査システムのマニュアル、JANSpedia電子サイトの操作マニュアルの作成を行った。
- ④ JANSpediaの広報フライヤーの作成
- ・ 新しい広報フライヤーを作成した。英語版のフライヤーも作成中である。
- ⑤ JANSpediaのコマーシャル動画の作成作業
- ・ コマーシャル動画を作成し、完成した。第45回学術集会の幕間でも流していく予定である。

## (9) 社会貢献推進委員会（西村ユミ理事）

議案書20-21頁に沿って報告があった。

2025年6月より社会貢献委員会と広報委員会が統合となったが、それ以前の活動も含めるため、以下のとおりそれぞれ報告された。

### 1. 旧社会貢献委員会（大久保暢子理事）

#### ① 第45回学術集会において市民公開講座を開催

市民公開講座「健康寿命をのばす「筋肉貯金」！～何歳からでも間に合うカラダづくり～」を12月7日に朱鷺メッセで開催予定である。谷本道哉氏を講師として、運動しながらの市民公開講座という形になっている。現在170名以上の予約があり大規模な講座になっている。

#### ② 次世代の看護学研究者発掘・育成事業の展開

- ・ 次世代の看護学研究者発掘・育成事業として、中高生を対象とした「次世代研究者発掘育成プログラム」を発案し、検討と実施をしている。
- ・ 「人の幸せにつながる科学を探究しませんかー看護学への招待ー」をメインテーマとして、プロジェクトを2023年に立ち上げている。サイト内では、中高生が視聴する「未来の看護学研究者となる皆さんに伝えるストーリー」として看護学研究者のドキュメンタリー動画を公開しており、「看護学の研究者として生きる」のサイトページでは、現在6名の若手看護学研究者のインタビュー記事等を公開している。国内外の看護学研究者の状況等（活動状況、給料、研究助成の採択件数等）も発信している。
- ・ このプログラムのコンテンツを題材にインスタグラムを立ち上げ、情報を公開している。現在ではインスタグラムに90本近いショート動画を公開しており、動画は随時発信している。ドキュメンタリー動画についてはYouTubeでも見られるようになっている。

### 2. 旧広報委員会（西村ユミ理事）

#### ① ウェブサイトの維持・管理・改善・リニューアル

- ・ 2025年3月31日に、内容の変更というよりもウェブページ自体を安定的に管理するためのリニューアルを実施した。その際、自動翻訳を活用した英語ページも新規作成したので、現在は日本語ページに情報をあげると、そのまま英語ページでも読める形になっている。
- ・ 開設当初は50,000人近くのページレビューがあり10月は40,000人、アクセス数は12,000人で、う



ち新規ユーザーは9,000人となっており、多くの方に活用いただいている。

② 学術集会等の広報活動

- ・第44回学術集会の様子は記録として本会ウェブサイトに掲載した。
- ・第45回学術集会については、市民公開講座の広報プレスリリースの作成配布と、発表等の間の様子をカメラマンが撮影する予定とし、今後アーカイブをしていく予定になっている。

③ 委員会成果物の公表

- ・「看護研究の玉手箱」はJANSの研究論文の表彰対象者に協力いただき掲載している。
- ・昨年度は映像を用いた方法で試行公開をしているので、ご覧いただきたい。

④ 広報用マスコットキャラクターの活用

- ・広報用マスコットキャラクター（ジャンとスウ）について、第44回学術集会では大きな看板として楽しんでいただいたかと思う。
- ・第45回学術集会では、キャラクターに関わるものをブースで配布するなどの活動を進める予定である。

⑤ デジタル広報の推進

- ・FacebookとInstagramで、引き続き広報の推進に努めていきたい。

⑥ 戦略的広報

- ・専門家にコンサルテーションを受け、効果的かつ戦略的広報を推進した。

(10)看護倫理検討委員会（任和子理事）

議案書22頁に沿って報告があった。

- ① 理事長から、既に第44回学術集会で発表した抄録の取り下げ申請に関する委員会の見解を求められ、審議した。その結果、「取り下げ手続きを進めることが妥当である」との結論を導き、2025年4月に報告書を提出した。
- ② 看護学が関連する倫理に関する講演会に向けて、検討を開始した。  
酒井郁子理事長より、補足説明があった。
- ① の件は前期の理事会で起こった事象であるが、今期も学術集会においてCOI等の関連で判断が難しい状況がある。そのため、学会本体でもCOIに関しての規程の整備をするとともに、学術集会との連携をしっかりとっていくという方向でこれから整備を進めていくところである。

(11)利益相反委員会（山本則子理事欠席のため、酒井郁子理事長から報告）

議案書22頁に沿って報告があった。

- ・利益相反マネジメント指針・細則に則り、役員・委員、和文誌・英文誌投稿時およびセミナー等の発表者・講師等の利益相反申告依頼を継続している。
- ・日本看護科学学会における学術活動の利益相反と諸規則との整合性を検討した。
- ・2024年4月から学術集会における発表者を対象とした利益相反申告システムの運用を開始し、現在まで大きなトラブルなく稼働している（2025年9月末時点 会員：1,754件、非会員：7件）。

(12)研究倫理審査委員会（山本則子理事欠席のため、酒井郁子理事から報告）

議案書22頁に沿って報告があった。

2025年9月に会員より研究倫理審査申請に関する問い合わせがあり、当倫理審査委員会の対象外と判断してその旨を回答した。

(13)災害看護支援委員会（西村ユミ理事）

議案書22頁に沿って報告があった。

- ・災害発出時の緊急調査について、実施の必要性等について適宜検討した。
- ・看護系学会、防災学術連携体等と連携し、関連情報をHPに掲載して周知した。防災学術連携体については常に細かな情報更新があるため、ホームページをご確認いただきたい。
- ・災害に関する関連学会との情報共有の方法について検討した。
- ・災害の現場で看護学領域研究に求められる課題を議論し、委員会の役割やニーズを検討した。

(14)若手国際化・研究助成委員会（吉沢豊予子副理事長）

議案書23-24頁に沿って報告があった。

2025年6月に若手研究者助成選考委員会と研究助成選考委員会が統合したため規定類の更新を行った。

1. 若手国際化研究助成

① 若手研究者が国外で開催される学術集会へ出席するための助成

- ・上限を50万円として随時募集をしている。
- ・2025年度は2件申請があり、滝沢知大氏、村本美由希氏を採択とした。それぞれ学会で口頭発表を行っている。

② 若手研究者が海外留学するための助成

- ・留学期間1カ月～6カ月未満は上限100万円、6カ月以上は上限200万円として、随時募集をしている。
- ・2025年度は3件申請があり、委員会で精査し、周藤美沙子氏と深田悠花氏を採択とした。

③ JANS45（12月6日）にて海外学術集会での発表者の帰国後発表を2名実施予定である。

2. 研究助成

大学院生とポストドクターの正会員を対象にした「挑戦的課題研究助成」と、大学院生とポストドクターを除く正会員を対象にした「指定課題研究助成」を行っている。

① 助成状況

- ・2023年度：挑戦的課題研究助成…延長分4件のうち3件完了、1件は再延長  
指定課題研究助成…延長分2件のうち2件完了
- ・2024年度：挑戦的課題研究助成…11件のうち10件完了（うち1件は2024年度、9件が2025年度に完了）、1件は延長  
指定課題研究助成…4件のうち4件完了
- ・2025年度：挑戦的課題研究助成…7名を採択（助成金振込済）  
指定課題研究助成…3名を採択（助成金振込済）
- ・2026年度：挑戦的課題研究助成…2025年9月8日より募集を開始して10月31日に締め切った。  
46件の申請があり、今後採択者の検討が始まる予定である。  
指定課題研究助成…長期継続に向けた財政確保のため2026年度は募集休止とした。

- ② JANS45研究助成セッションにて、対象21件のうち12件が3セッションに分かれて発表を実施予定である。成果について、ぜひセッションに参加して見ていただきたい。

(15)会則等委員会（任和子理事）

議案書25頁に沿って報告があった。

① 第6章学会総会に関する改正案を検討

公益社団法人の決議機関は社員総会であり、定款第4章に「社員及び社員総会」が規定されている。しかし、学会総会の規定のところで社員総会と同様の項目が規定されていたということがあった。これらを検討し、学会総会に関する内容を改定して、2025年6月社員総会にて改正となった。

② 定款の修正に伴う下位規程等の見直しを検討

研究助成規程、研究助成資金取扱細則、研究助成選考細則、研究助成選考に関する申し合わせについて、内容等を吟味し、「研究助成規程」「研究助成資金取扱内規」「研究助成選考内規」として整備して改正案を前期理事長に提出した。若手研究者助成規程についても同様に整備し、改正案を前期理事長に提出した。

③ 研究助成関係規定（9規程・内規等）を点検整備

若手研究者助成規程と研究者助成規程を統合する方針が出され、統合案を報告、2025年6月の理事会にて改正された。

(16)総務委員会（黒河内仙奈理事）

議案書25頁に沿って報告があった。

① 入会審査、会員管理の実施

- ・2025年の入会審査数は、822名であった（2025年10月現在）。

② 会員資格基準の変更および学生会員の創設

- ・入会対象の拡大を図るため、会員資格基準の変更および学生会員資格の見直しを検討した。

③ 学会事務所の運営

- ・事務所職員として6名の常勤職員がおり、緊密に連携をとり情報共有に努めた。併せて定期的な事務所の訪問と職員との面談を実施し、業務遂行状況について把握を行った。

(17)選挙管理委員会（武村雪絵委員長・黒河内仙奈理事）

議案書25-26頁に沿って報告があった。

- ・手順に則り、2025年選出理事候補者選挙を実施した。
- ・郵便料金値上がりや郵送日数の増加により送付資料や回答方法を見直した。投票手順等はHPで確認いただき、郵送物を少なくして郵送費を抑えた。また、当選通知や当選者の諾否回答は郵送ではなく会員管理システムのメールおよび回答システムにて回答するように変更した。
- ・スケジュールとしては、1月15日に公示文書をホームページに公開、2月3日から24日に電子投票を実施、2月25日の第5回選挙管理委員会にて開票と当選通知の送信をした。4月7日の第3回選挙管理委員会で理事名簿を作成、5月20日の第1回理事会で選挙報告とともに理事名簿を提出して承認、6月の定時社員総会にて理事名簿が承認となっている。

## (18)他機関との連携活動

議案書26-27頁に沿って報告があった。

### ①日本看護系学会協議会（JANA）（吉沢豊予子副理事長）

- ・学会からの代表として意見交換会へ参加した。
- ・APN制度推進委員会 シンポジウム開催について会員に告知した。
- ・JANAから提供された情報を必要に応じ会員、役員にメール配信し共有した。

### ②看護系学会等社会保険連合（看保連）（大久保暢子理事）

- ・2025年度研究助成推薦について、本会からの承認希望を募ったところ5名の応募があり、社会貢献委員会で審査を行った。その結果、承認4件、不承認1件で助成の推薦を行った。
- ・看保連理事として、各会議並びに理事会に出席し、看保連20周年事業の企画をおこなった。

### ③日本学術会議（吉沢豊予子副理事長）

- ・日本学術会議から提供のあったニュース・メールを役員に提供した。
- ・日本学術会議公開シンポジウムの後援となり、会員に開催情報を提供した。

### ④その他の機関（吉沢豊予子副理事長）

- ・一般社団法人日本医療安全調査機構からの依頼で2025年度は1名の会員を個別調査部会に推薦した。本協力は2016年度から行っており、57名の会員を推薦してきている。

【質疑】なし

## VII. 審議事項

### 第1号議案「会員資格基準の変更」について

議案書28-30頁に基づき、黒河内仙奈理事より以下の説明があった。

- ・会員資格基準変更の理由は、①実践者および看護学以外の分野からの入会を促進するために必要な「業績」の条件に関する変更、②学生会員が利用できるサービスを拡大するため、学生会員の基準およびサービスの範囲に関する変更、である。
- ・①実践者および看護学以外の分野からの入会を促進するために必要な「業績」の条件に関する変更についての改正案は、以下の点である。

- a. 第2条の「業績基準」を「基準」に変更する。第4項に「看護分野における研究、活動、教育に関心のある者」を追加する。
- b. 第5条の「必要な研究業績の条件」を「必要な基準の条件」に変更する。第4項を全て削除し、新たに「正会員の紹介がある」に変更する。

これらの変更をすることで入会の機会を広げることが可能になる。

- ・②学生会員が利用できるサービスを拡大するため、学生会員の基準およびサービスの範囲に関する変更についての改正案は、以下の点である。

  - a. 第3条の学生会員について、第1項で看護基礎教育課程に所属している学生に限定し、大学院生を対象外とする。
  - b. 附則として、改正案を承認いただけたら会員資格基準の改正は2025年11月30日より施行する。現在の学生会員には大学院生が含まれることから、改正前の規則で入会した学生会員は学生証明書等に記載された有効期限まで有効とする。

学生会員は現行の規則では和文誌への投稿や学会集会での発表等ができない条件となっているが、この変更が承認された場合には学生会員へのサービスの拡大を検討している。

#### 【質疑応答・意見】

議長は、意見や質問を促したが質問等なく、「会員資格基準の変更」は賛成多数で承認された。

#### VIII. その他（フリーコメント含む）

- ・会員数が多い学会の運営をしていただき、理事の方々には感謝申し上げたい。混沌とした現代の中で、看護の独自性やさらなる発展を考え、それを地球規模でも考えていくのは大変だろうと思うが、よろしく願いたい。（山本あい子社員）
- ・今期より学会員以外から理事を選任するというご指名をいただき着任した。数年前まで厚生労働省の看護課におり、看護行政を進めるうえでご協力いただいた先生方にこの場をお借りして感謝申し上げたい。私はアカデミアの人間ではなく、どちらかというと行政や政策という観点で仕事をしてきたので、学会のアカデミアな部分には意見を申し上げることが少ないかもしれないが、非常に大きな組織であり看護界にとっても宝のような存在の学会だと思うので、理事長の仰った今期のミッションを果たすことができるよう、運営面（規程や枠組み等）について役に立てればと思っている。また、多岐にわたる幅広い学会だと思うので、研究活動や看護の質向上といった面で、学会がしっかり役割を果たせるよう理事の1人として努めたい。（島田陽子理事）
- ・理事長や委員長の報告を聞いて、この学会は皆さんに育てていただけていると、大変嬉しく思って拝聴した。（近藤潤子名誉会員）
- ・第46回学術集会は東京国際フォーラムで開催する。このご時世、たくさんの旅行者が都内にお越しになっている中での開催となり落ち着かないところはあると思うが、皆様にはたくさんの研究発表をいただきたい。大変経費もかかるころではあるので、皆様のご助力で盛り上げていただき、赤字にならないよう頑張っていきたい。また、ケアは広く人間同士だけではなく環境にも影響するということを考えて進めていきたいので、広い意味でケアを考え、ケアで社会を作るという学術集会にしていきたいと考えているので、よろしく願いたい。  
（西村ユミ理事・46回学術集会会長）
- ・昨年の社員総会の際にもJANSの財政状況について今後見直しが必要であるというところを報告したが、今すぐに資金がどうなるという状態ではない。公益社団法人として公益事業では赤字を出していかなければいけない（収支相償）ということでそうしているが、実際にはたくさんの会員がいて会費の納入率も非常に高いのが本学会の特徴である。ただ、1人の理事が2つ3つの委員会を担当して各委員会でもかなりの事業を行い、若手にも助成を拡大して、と様々に活動してきて積み上げて気づいてみたら見かけ上だけではなく実質赤字になりつつあるという状況が出てきた。それは、コロナ後の皆様が経験している人件費の高騰、諸費用の高騰、そういったことが学会にとっても大きく響いてきたということである。そのため、時代に合わせた活動を振り返ってみななければいけないというのは理事長が所信表明で仰ったとおりである。そのため、外部の意見も伺ったり内部でも話し合ったりしながら、予算を立てていきたいと思っている。それは、2月の理事会で審議して、社員総会では決算と併せてそのあたりを詳細に報告できる予定である。  
（萱間真美理事）

・緊縮財政をするつもりはないが、効率的効果的に使うべきところに使っていくために、二重三重に頑張っているところを少しスリム化して効率を上げていくことによって、学会の価値を向上させるという未来志向での改革・改善、発展の基盤づくりをしたいと考えている。萱間理事の説明とおり、2月の理事会では色々と大きな変更をさせていただく可能性もあるが、ぜひ共有していただき疑問点はどんどん言っていただいて、よりよい方向に進めて行ければと思っている。

(酒井郁子理事長)

## IX. 閉会

司会の吉沢豊予子副理事長より、後から参加した人数を含め、有効委任状・議決権行使を含め出席者数は282名であることが報告され、その後、閉会が告げられた。

この議事録が正確であることを証するため、議長および議事録署名人により以上の議事を認め、記名押印する。

2026 年 1 月 30 日

議長 酒井 郁子 ⑩

議事録署名人 奥 裕美 ⑩

議事録署名人 小池 智子 ⑩